

2018 年度

点検・評価報告書
－アセスメント結果の概要－

看護学部

「アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果の測定及び可視化を推進」

報告書

看護学部

(1) 2018 年度実施計画

看護学部アセスメント・ポリシーを看護学部評価分科会にて協議後、学部教授会で審議し公開する。

学生参加型の内部質保証に向けた取り組みに関して、分科会にて協議後、学部教授会で審議する。

学部カリキュラム検討委員会にて、学部アセスメント・プランに準じたアセスメントを実施・検討し、新カリキュラム及び次年度に活かしていく。

(2) 2018 年度実施報告

看護学部アセスメント・ポリシーは 6/6 第 2 回看護学部評価分科会にて協議後、6 月度学部教授会で提案し、7 月度学部教授会で承認され、ホームページ上に公開された。

学生参加型の内部質保証に向けた取り組みに関して、5/9 第 1 回分科会にて協議後、5 月度学部教授会で承認され、学部協議会を分科会での内部質保証の中に位置づけることになった。

学部カリキュラム検討委員会にて、学部アセスメント・プランに準じたアセスメントを実施・検討している。

①測定結果の概要

a. 看護実践能力到達度評価、看護技術到達度評価、国家試験・模擬試験からみた現行カリキュラムの評価から窺える課題と検討事項に関するサマリーを学部カリキュラム検討委員会が、それぞれ資料 1-①、2-①、3-①にまとめた。

b. マイルストーン科目（健康と生活）における調査を通して、学期始めと終わりの比較においては、学びの計画性と学習者としての自覚には有意な差が無かった。本学部独自項目として掲げた看護師へのキャリア成熟性については、学期始めよりも学期終わりに得点が低くなった。

②各アセスメントの詳細・根拠書類（資料等 7 件添付）

a. 学部カリキュラム検討委員会が作成した資料（1-①、2-①、3-①）を基に、看護実践力到達度評価、看護技術到達度調査に関して、学部構成員全員で、10/15 と 10/22 の両日に意見交換会を行った。またワード資料の基となる 1，2 期生および教員の看護実践力到達度評価結果のデータ（資料 1-②、資料 1-③）と 1，2 期生の看護技術到達度調査結果のデータ（資料 2-②）を添付する。

b. AP 推進チームによる 2017 年度アセスメント科目（健康と生活）の分析結果（資料 4）を添付する。2018 年度アセスメント 2 科目を実施しており集計結果を添付する（資料 5）。

③測定結果を基にした教育改善への活用

- a. 看護実践能力到達度評価、看護技術到達度評価、国家試験・模擬試験からみた現行カリキュラムの評価に関しては、資料(1-①、2-①、3-①)の検討事項の欄に詳細に記載した。
- b. マイルストーン科目における調査を通して、計画的な学びに対する介入の必要性や、主体的な学習者として自覚できるような支援が必要であると考えられた。看護師へのキャリア成熟性については、学期始めは「看護師という職業への関心」を問い、学期終わりは「看護師になる心構え」を問うたため、医科学や看護専門科目に触れ、看護師になる上での学びの深さや難しさを改めて知ったことで、学期始めよりも学期終わりに得点が低くなった可能性が考えられた。さらに、マイルストーン科目の入学直後の「学びの計画性」に関する自己評価は2016年から2018年にかけて年々低下しているものの、学期終わりには、その低下が見られなかったことから、「学びの計画性」の能力が涵養されたと考えられた。また、どの年度でも、「学びの計画性」と「学習者としての自覚」の得点が、学期始めに比べ学期終わりに上昇していたため、これらの能力も涵養されたと考えられた。